

みずほマーケット・トピック(2019 年 10 月 21 日)

思い出したい「10 月 31 日」の経緯～次に起こることは～

英下院で 19 日に予定されていた新離脱協定案の採決は見送られた。9 月に成立したベン法に従い、ジョンソン英首相は EU に離脱延期を申請する義務が生じることになるが、既報の通り、同首相はその義務を拒否している。22 日に再び採決に挑む意向を述べているが、そもそも審議が認められるかも含め不透明感が強過ぎる情勢。なお、英国が「延期要請をするか否か」が焦点になること自体、根本的な違和感がある。そもそも EU としてぎりぎり認められるのが「10 月 31 日」だったという経緯がある。延期ありきの議論は危うい。既にマクロン仏大統領は延期を認めない方針を表明済み。諸情勢を踏まえれば、今週中に事態が収束する可能性は低い。EU の矜持としても、直前まで英議会での意見集約を促してから、延期を承認したいところではないか。

～愚行極まる英国～

英下院で 19 日に予定されていた新離脱協定案の採決は見送られた。これにより「10 月 19 日までに議会が離脱案を可決するか、合意無き離脱を承認しない限り、首相は EU に対して 2020 年 1 月 31 日までの離脱期限延長を要請すること」ことを定めたベン法に従い、ジョンソン英首相は EU に離脱延期を申請する義務が生じることになる。しかし、既報の通り、ジョンソン首相は改めて「私は EU と離脱延期について交渉するつもりはないし、法律にそれを強制されることもない」と議会で表明、引き続き 10 月末の離脱を目指す方針に変更はないと強調している。その上で再び今週 22 日に採決に踏み込む意向を述べており、あくまで今月 31 日の離脱という方針は変えていない。しかし、後述するように、明日に批准というのは楽観に過ぎる。また、仮に EU が延期を承認するにせよ、これまでの経緯を考慮すれば、今週中ではなくギリギリまで引っ張るのが筋となるだろう。

現状を踏まえ、ジョンソン英首相から EU に対しては 2 通の書簡が送付されたという。1 通はベン法に定める延期申請文だが、これにジョンソン首相の署名は記されていない(署名がないことによる有効性への影響は不明)。そしてもう 1 通はジョンソン首相が署名した上で「さらなる延期は英・EU の利益と関係を損なう」として、延期要請を承認しないことを求める内容である。これだけ差し迫った状況においても国家元首と議会の見ている方向が正反対で、しかも意見集約をしないまま交渉相手に判断を委ねるというのは、想定を超える動きであり、愚行が極まっているといわざるを得ない。ユンケル欧州委員長からは「加盟国の首脳と協議を始める」との発言が報じられているが、筋論から言えば、まずは英国からの書簡を 1 通に絞らせてから取り合うべきと考えられる。

～そもそもなぜ「10 月 31 日」だったのか思い返すべき～

EU 側がどう出てくるかは今の段階では何とも言えない。しかし、英国が「延期要請をするか否か」が焦点になること自体、根本的な違和感がある。そもそも「10 月 31 日」という日付はどのように決まったのかを思い返したい。今年 4 月 10 日に開催された臨時 EU 首脳会議が、8 時間に及ぶ議論

の末、「10 月 31 日」まで再延長することで合意したのであった。この際、EU からは 12 か月間、メイ首相(当時)は 3 か月間(今年 6 月末まで)が主張されていたが、結局は両者の間を取って約 6 か月間の延長に落ち着くという極めて欧州らしい経緯があった。また、「10 月 31 日」は欧州委員会(や ECB)の現執行部が刷新されるタイミングゆえに選ばれたという見方もあった。短期延期を主張する英国や一部の EU 加盟国(フランス)と長期延期を主張する大多数の EU 加盟国にとっての最大公約数が 6 か月だったということであり、そのタイミングの着地点(10 月 31 日)にたまたま「欧州委員会の刷新」という大義があったのだと筆者は推測している。

マクロン仏大統領の強い反対がなければ恐らくは 12 か月延期になっていたという声は多く、その意味で EU 側としてぎりぎり認められるのが「10 月 31 日」だったという経緯が重要である。そのような経緯を踏まえると延期申請をして、それが認められることありきでシナリオの想定が進んでいること自体が「ずれている」ように思える。今年 4 月当時、マクロン仏大統領は「EU 首脳の過半数が非常に長期の離脱延期を支持していたことは事実だ。しかし、私から見ればそれは論理的ではなく、何よりわれわれにとっても英国にとっても良いことではなかった」と述べている。期限を延ばすほど EU 改革(共通予算設立など)の進展に支障をきたすというのがマクロン大統領の立場だったと考えられるが、これは実に正論である。もはや想定すべきは「英国の意思にかかわらずノーディール」だろう。マクロン大統領は、既に記者団に対し「10 月 31 日の期限は守られるべきだ」と語っている。ジョンソン首相から依頼されるまでもなく 3 度目の延期など検討の余地もないという立場だろう。

～次に起こることは？～

とはいえ、離脱延期申請を拒絶すれば、最終的な形としては EU がノーディール離脱の引き鉄をひいた格好になる。これまでの経緯を踏まえれば、英国に非があるのは明白だが、政治的にそうした構図となることを EU が嫌がる気持ちも分かる。実際、報道に目を向ければ、英国がノーディール離脱を敢行しようとしている状況に対し、EU はさらなる延期を促すように働きかける構えにあると報じられている。だが、これまでの経緯に鑑みれば、直前まで英議会での意見集約を促してから、延期を承認するというのがせめても矜持になろう。その意味で明日の収束を期待するのは早い。

一方、明日の採決で新離脱協定案が批准されるということはないのか。この可能性も低い。19 日に採決が見送られたのは、「(離脱協定案を実施するにあたって必要な)関連法案が成立するまで批准は先送りする」との動議(レットウィン法)が決議されたからである。だとすれば、明日、採決しようとしても状況は変わらないため、下院議長が審議自体を認めない可能性もある。また、関連法案を残し 10 日で全て通すというのも現実的とは言えないが、「10 日で全て通して直ぐに批准」という方が明日に批准が行われるよりは可能性が高いように思われる。いずれにせよ、今週中に全て片付くという想定は持つべきではないというのが実情に近そうである。

市場営業部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年10月18日	週末版(2度目の離脱協定案合意～3つの論点を整理～)
2019年10月16日	FRBのTB購入を受けて～欲しかった「ずる賢さ」～
2019年10月11日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～議論紛糾の読み方、議事要旨としては秀逸～)
2019年10月10日	円相場の需給環境について～縮小均衡～
2019年10月9日	FRBの資産購入再開と懐かしのソロスチャート
2019年10月8日	揺らぐリブラ計画～初のメンバー脱退表明を受けて～
2019年10月7日	米9月雇用統計を受けて～「思ったより悪くない」の危うさ～
2019年10月4日	週末版(製造業から非製造業への波及は始まったのか～ISM景気指数の悪化を受けて～)
2019年10月3日	ユーロ圏の物価情勢の現状と展望～日本化の過渡期?～
2019年10月2日	ISM製造業景気指数の「底」は見えそうか?
2019年9月27日	週末版(三度起こった「ドイツの乱」～ラウテンシュレーガー-ECB理事辞任の読み方～)
2019年9月26日	円安リスクの点検～財政政策というアップサイドリスク～
2019年9月25日	為替相場の現状を概観する～REERを通して見えること～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年8月分)
2019年9月24日	「羊頭狗肉」化するマイナス金利政策
2019年9月20日	週末版(日米金融政策決定会合を受けて～9月乗り切るも日銀の難局は続く～)
2019年9月17日	「原油高&円安」が重荷になる日本経済
2019年9月13日	週末版(ECB政策理事会レビュー～出尽くし懸念強まるパッケージ緩和～)
2019年9月11日	均衡イメージが変わらない円の基礎的需給環境
2019年9月10日	日銀会合レビュー～9月の一手と利下げの行方～
2019年9月6日	週末版(ECB政策理事会レビュー～APP再開は困難だが、露払いはいしたいところ～)
2019年9月5日	プレグジットを巡る論点整理～ポンド/ドルは1.20割れ定着か～
2019年9月4日	米企業心理とドル相場の関係～ISM悪化を受けて～
2019年9月3日	リブラを全否定したメルシュ講演～不安はどこに～
2019年9月2日	消えない米国のドル売り介入観測について～諸刃の剣～
2019年8月30日	週末版
2019年8月29日	ユーロ圏投資ファンド統計に見るポートフォリオリバランス効果
2019年8月27日	円安リスクの点検～警戒すべきトランプ減税第二弾～
2019年8月26日	円高・ドル高という地合い～105円割れを受けて～
2019年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～9月のパッケージ緩和が濃厚に?～)
2019年8月22日	FOMC議事要旨を受けて～「調整」の誘惑、日銀の経験～
2019年8月21日	ドイツのISバランスは遂に変わるのか?
2019年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年7月分)
2019年8月19日	YCC、捨てる日銀と拾うECB
2019年8月16日	週末版(2019年上半期の対米証券投資について～下期以降の景色は大幅変わりそう～)
2019年8月15日	ドイツに引きずられるユーロ圏経済
2019年8月14日	中国の「次の一手」として米国債売却はあるのか?
2019年8月13日	ドル高止まりによる引き締め効果～利上げ17回分?～
2019年8月9日	週末版
2019年8月6日	遂に突破した「1ドル=7.0円」～対抗措置としての元安～
2019年8月5日	米7月雇用統計を受けて～趨勢的な鈍化は明らか～
2019年8月2日	週末版(何の意味もなかったパウエル議長の失言～トランプ関税とインフレ停滞も利下げの理由に～)
2019年8月1日	FOMCを終えて～「1歩譲れば100歩求める」～
2019年7月31日	日銀金融政策決定会合～流行りの「予防的緩和」～
2019年7月30日	円安リスクの点検～英の再国民投票復活などがリスク～
2019年7月29日	ECB政策理事会レビュー～見どころの整理～
2019年7月26日	週末版
2019年7月25日	リブラと金融政策～新興国と信用創造に対する影響～
2019年7月24日	「利下げに囲まれる日銀」と「通貨政策化が進む世界」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年6月分)
2019年7月22日	ECB政策理事会レビュー～「目標見直し」は大事業～
2019年7月19日	週末版(実質実効為替相場の現状と展望～「ドルは過大評価」とのIMF評価を受けて～)
2019年7月18日	本邦家計部門の金融リテラシーは低いのか?
2019年7月17日	欧米貿易摩擦こそ正当な貿易摩擦という考え方
2019年7月16日	株価を見なくなったドル/円相場と追い込まれる日銀
2019年7月12日	週末版
2019年7月5日	週末版
2019年7月3日	ラガルドECB総裁就任の読み方
2019年7月2日	日銀短観の読み方～「底入れ」は確認できず～
2019年7月1日	大阪G20を終えて～円相場を駆動するのは株価ではなく金利～
2019年6月28日	週末版
2019年6月26日	円安リスクの点検～大統領選前にトランプは動くか～
2019年6月25日	対外資産・負債残高の近況～令和で経験する大きな変化～
2019年6月24日	利下げ期待とドル/円相場の関係～「98年型利下げ」としても～
2019年6月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～「ドル高の修正」という大きな潮流～)
2019年6月20日	FOMCを終えて～「鏡に映った自分」に怒り続ける大統領～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年5月分)
2019年6月19日	為替市場と金利市場の期待格差について
2019年6月14日	週末版(日銀金融政策決定会合レビュー～サプライズがあるとするならば……)
2019年6月13日	厳しい緩和競争が予想される日欧中銀
2019年6月12日	FRBと金融市場の「接待関係」は持続可能なのか?
2019年6月11日	ユーロ高を警戒し始めたECB～通貨安欲しさに利下げ?～
2019年6月10日	利下げを促す米雇用・賃金情勢～6月利下げも?～
2019年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～シントラから2年で振り出しに戻ったECB～)
2019年6月6日	次のカタルストとしての中国の外貨準備
2019年6月5日	虚しい「フォワードルッキング」な政策運営
2019年6月4日	ECB政策理事会レビュー～TLTRO3詳細発表へ～
2019年6月3日	「利下げタイミングを当てるゲーム」が始まりそう
2019年5月31日	週末版
2019年5月29日	米為替政策報告書を受けて～ドル高への不満も～
2019年5月28日	円安リスクの点検～円高リスク高まった5月～
2019年5月27日	ECB政策理事会議事要旨～衰える基本シナリオの信認～
2019年5月24日	週末版
2019年5月23日	プレグジットQ&A～メイ辞任、再国民投票、勝負の6月～
2019年5月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年4月分)
2019年5月21日	ユーロ相場の需給と「ドルしが買えない」状況
2019年5月20日	「1ドル=7.00」の攻防再び
2019年5月17日	週末版(円相場の需給環境について～建値通貨別でユーロ建て証券投資が過去最大に～)
2019年5月15日	景気動向指数の「悪化」判断と増税の先行きについて
2019年5月14日	関税引き上げと通貨安～元安対抗にも限界あり～
2019年5月13日	米中協議は実質決裂へ～舞台は大阪G20へ?～